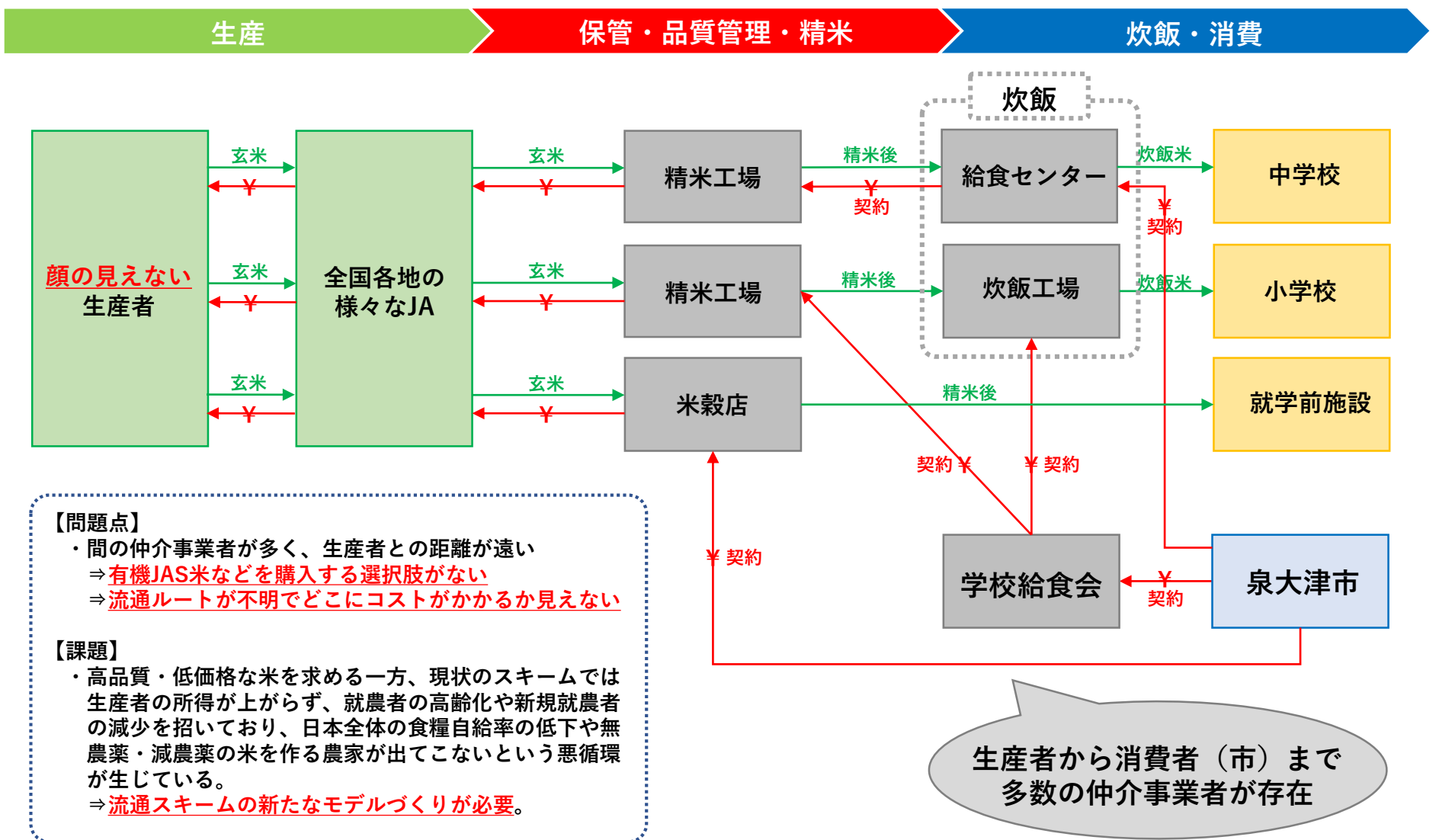


# お米の流通に関する実証実験

別紙 2

## 現状（従来のサプライチェーン）

→ お金の動き    → お米の動き



### 【問題点】

- ・間の仲介事業者が多く、生産者との距離が遠い  
⇒ 有機JAS米などを購入する選択肢がない  
⇒ 流通ルートが不明でどこにコストがかかるか見えない

### 【課題】

- ・高品質・低価格な米を求める一方、現状のスキームでは生産者の所得が上がらず、就農者の高齢化や新規就農者の減少を招いており、日本全体の食糧自給率の低下や無農薬・減農薬の米を作る農家が出てこないという悪循環が生じている。  
⇒ 流通スキームの新たなモデルづくりが必要。

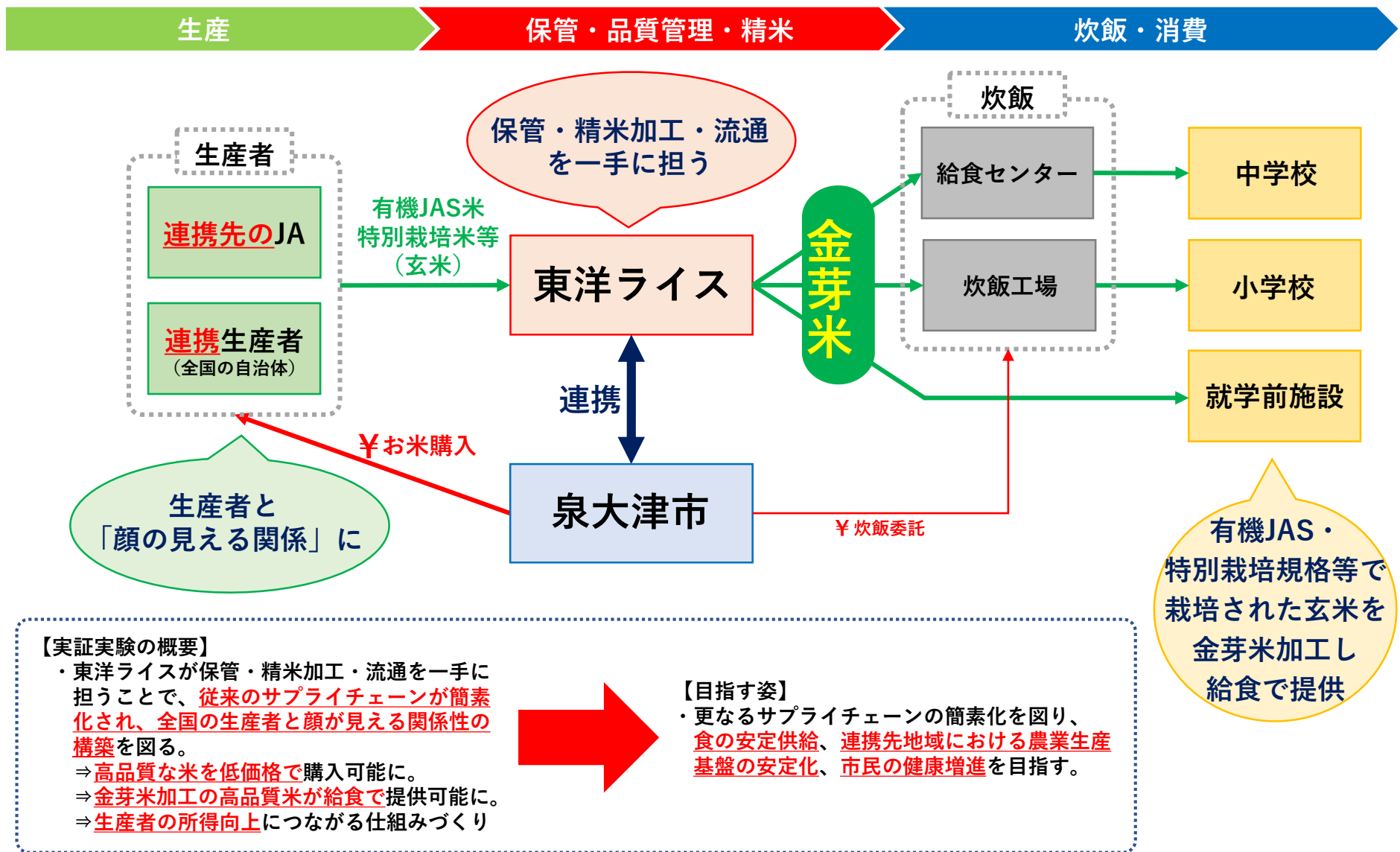
生産者から消費者（市）まで  
多数の仲介事業者が存在

# お米の流通に関する実証実験（つづき）

別紙 2

## 今回の実証実験（新たなサプライチェーン）

→ お金の動き    → お米の動き



### 【実証実験の概要】

- ・東洋ライスが保管・精米加工・流通を一手に担うことで、従来のサプライチェーンが簡素化され、全国の生産者と顔が見える関係性の構築を図る。  
⇒ 高品質な米を低価格で購入可能に。  
⇒ 金芽米加工の高品質米が給食で提供可能に。  
⇒ 生産者の所得向上につながる仕組みづくり

### 【目指す姿】

- ・更なるサプライチェーンの簡素化を図り、食の安定供給、連携先地域における農業生産基盤の安定化、市民の健康増進を目指す。

有機JAS・特別栽培規格等で栽培された玄米を金芽米加工し給食で提供